



みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会



東京オリンピックまで あと122日
(2020年3月25日現在)

ホストタウン交流事業 パラオセミナー in Hitachiomiya

ホストタウン交流事業の一環として、「もっと深く、もっと身近に、もっと一緒に楽しく太平洋の楽園パラオ共和国を知ろう！」をテーマに、道の駅常陸大宮～かわプラザ～で全3回(参加者55人)のパラオセミナーを開催しました。

第1回 (1月26日)

東洋大学国際観光学部准教授の藤稿亜矢子^{とうこうあやこ}先生を講師として「パラオの魅力を持続可能なものとするために～常陸大宮との共通点を見つけてみましょう～」と題し、講演やワークショップを行いました。パラオが世界複合遺産に登録された経緯やパラオの伝統文化、食文化について学習し、パラオについて理解を深めるとともに、本市の魅力や地域課題についてグループワークを行い、両者の共通点を見出すことで、今後の交流の可能性について意見交換を行いました。



▲藤稿亜矢子さん



▲芝村剛さん

第2回 (2月1日)

パラオ政府観光局日本事務所代表の芝村剛^{しばむらつよし}先生を講師として「パラオの観光」について講演を行いました。「ジェリーフィッシュレイク」や「ペリリュウ島戦跡ツアー」など、パラオの代表的な観光地やツアーについて紹介した後、パラオの歴史や、パラオが世界に先駆けて導入した環境保護・保全に関する取り組みである“Palau Pledge (パラオ誓約)”の説明がありました。また、パラオでは、今年1月よりサンゴ礁に有害な物質を含んだ日焼け止めの持込を禁止する法律が施行されたことも話され、参加者からは日焼け止めの持込のチェック方法などについての質問もあり、観光だけでなく、美しい自然環境を守るためのパラオの取り組みについて学びました。



▲松岡洋司さん

第3回 (2月8日)

公益社団法人青年海外協力協会^{まつおかようじ}の松岡洋司先生を講師として「パラオプロジェクト」を考えるワークショップを行いました。グループに分かれ「私が思うパラオの魅力」について発表を行い、パラオの魅力を伝える方法を考えました。各グループからは、市内の廃校を活用したパラオとの交流・体験スペースの創出やパラオへのツアー造成などについて提案があり、松岡先生からは、「今日皆さんが提案したパラオプロジェクトが実現できるように、市や市民の皆さんが協力して取り組んでいきましょう。積極的な皆さんの意見や考え、行動が大事です。」とのお話がありました。

今回のセミナーを通して、参加者の皆さんが、パラオ共和国を知るとともに、本市の魅力を見直し、本市やパラオが抱える身近な課題を認識し、課題解決に向けた考察をする機会となりました。セミナー終了後に実施した参加者アンケートでは「今回のグループワークで出たことを交流に生かせたら良いと思った」「知らない事ばかりで、とても参考になった」「今後の市とパラオの関係のあり方をよく学ぶことができた」などの感想をいただきました。本市では、東京2020大会に向けてさらなる機運醸成を図るとともに、大会終了後も、パラオ共和国との継続的かつ発展的な友好交流を促進するため、引き続き本市のホストタウン交流事業に参画できる仕組みづくりを推進していきます。

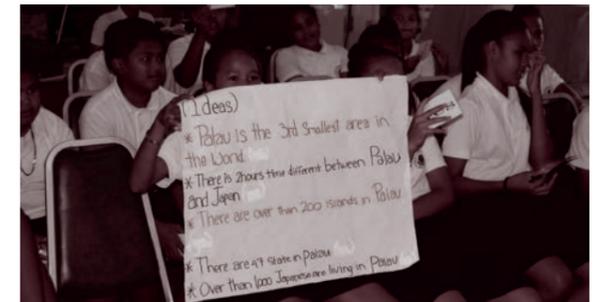
2/13

ホストタウン交流事業 テレビ電話を活用した小学校間交流

パラオ共和国のペリリュウ小学校5～8年生28人と、大宮西小学校5年生63人がテレビ電話を活用した交流を行いました。この事業は、異文化理解の向上や国際理解の促進を図ることを目的として実施しました。

大宮西小学校

スクリーンにお互いの姿が映し出された後、交代でYes・Noクイズを出し合いました。その後、お互いの国や学校、食べ物について紹介しました。大宮西小学校児童は、写真を用いて説明したり、納豆を紹介し、食べ方の実演では、ペリリュウ小学校児童から歓声があがりました。大宮西小学校のキャラクター“すたっぴー”も登場しました。ペリリュウ小学校児童からは、日本にはない魚料理の紹介があり、大宮西小学校の児童は「どんな味がするのか食べてみたい」と話していました。最後に、ペリリュウ小学校の児童は国歌を、大宮西小学校の児童は合唱曲“BELIEVE (ビリーブ)”を披露してお別れしました。参加した大宮西小学校児童からは「パラオについていろいろ学べた。パラオに行ってもっと知りたいと思った」「ペリリュウ小学校の人が少しでも日本に興味をもってくれたら嬉しい」などと感想がありました。今後もパラオと本市の子供同士の交流をとおして、グローバル人材の育成と友好交流を促進していきます。



▲クイズを出すペリリュウ小学校の児童



▲みんな興味津々！

2/14

ハローオリンピズム事業 JOC オリンピック教室

JOC オリンピック教室とは、公益財団法人日本オリンピック委員会が主催する事業で、オリンピック（オリンピックに出場経験のあるアスリート）が教師役となり、自身のさまざまな経験を通して「オリンピックの価値」などを伝えるとともに、多くの人々がそれを共有し、日常生活にも生かすことを目的としています。

山方中学校

2年生38人を対象にJOC オリンピック教室が開催されました。講師は、2006年トリノ五輪にバイアスロン（10kmスプリント）で出場した蛭沢大輔^{むさし}さん。

運動の授業では、全員で体を動かし温めた後、オリンピックバリュー（オリンピックの価値）“Excellence（卓越）”“Friendship（友情）”“Respect（尊敬）”を意識した8の字縄跳びを行いました。より良い結果を出すために工夫することなどをチームで積極的に話し合い、協力して取り組みました。最後には、蛭沢さんと生徒全員で大縄跳びにチャレンジし、みんなで声を掛け合い跳ぶことに成功しました。

座学の授業では、蛭沢さんがオリンピックに出場した体験をもとに、「努力は裏切らない」「昨日の敵は今日の友」「家族への感謝」などとオリンピックの価値について生徒たちに伝えました。その後、「プレッシャー克服の方策」についてグループごとに考え、生徒からは「これまでの努力を信じる」「仲間と励まし合う」などの意見が出ました。



▲腕立て伏せを指導する蛭沢さん



▲グループワーク後発表しました